

みずほマーケット・トピック(2017年10月27日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

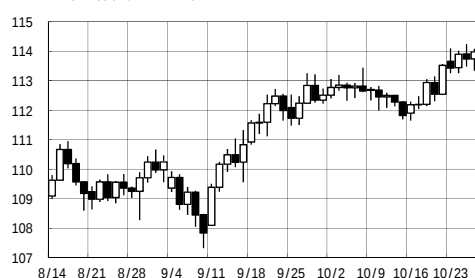
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は上値重い展開。週末投開票の衆議院議員選挙で与党が大勝したことから、週明け 23 日のドル/円はギャップアップして 113 円台後半でオープン。一時 114 円を上抜けたが、およそ 3 か月半ぶりの高水準に本邦輸出勢によるドル売りが意識されて 113 円台後半へ値を下げた。その後も米金利低下や NY ダウ平均が下落する中、ドル/円は週安値となる 113.25 円まで続落した。24 日は米予算決議案の下院採決が 26 日に行われる見通しと報じられ、ドル買いの動きが強まるとドル/円は 113 円台後半まで上昇したが、114 円近辺では上値重く推移。税制改革案に共和党の 3 議員が反対する可能性との報に 113 円台半ばまで急落したが、次期 FRB 議長を巡る共和党の挙手投票でテイラー氏が最も支持を得たことが伝わると 113 円台後半まで買い戻された。25 日は米 10 年債利回りが節目とみられていた 2.4%を上回ったことを背景に週高値となる 114.24 円まで上昇。しかし、米株が軟調となり米金利が低下すると 113 円台後半まで値を下げた。26 日は北朝鮮の外務省高官が核実験を示唆し、地政学リスクが意識されると 113 円台前半まで続落。しかし、ECB 政策理事会における声明文や会合後のドラギ ECB 総裁による発言内容がハト派的と捉えられ、ドル買い優勢になるとドル/円は 113 円台後半まで反発した。さらに米下院が上院の予算決議案を可決したことから税制改革への期待が高まったことで 114 円まで買われ、本日にかけても同水準で推移している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は ECB 政策理事会後に急落。週初 23 日に 1.17 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、週内に ECB 政策理事会を控えて様子見ムードが強い中、スペイン・カタルーニャ自治州の独立問題への懸念から 1.17 台前半まで値を下げた。24 日は 1.17 台後半を回復し、米税制改革案に関するヘッドラインを受けたドル売りに一時 1.18 手前まで急上昇したが、その後はドル買いが強まったことから直ぐに 1.17 台後半まで値を戻した。25 日は ECB 政策理事会を明日に控えて 1.17 台後半で小動きが続いていたが、米金利低下を背景にドル売りが強まると 1.18 台前半まで急伸した。26 日もユーロ/ドルは続伸し、一時週高値となる 1.1837 をつけた。だが、ECB 政策理事会の声明文で必要であれば拡大資産購入プログラム(APP)は継続されることが示されると 1.17 台半ばまで急落。会合後の記者会見においてドラギ ECB 総裁が APP 終了後も現在の政策金利が相当期間にわたり据え置かれることを示唆すると 1.16 台前半まで一段安となった。本日のユーロ/ドルも売りが優勢となる中、週安値を更新している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		10/20(Fri)	10/23(Mon)	10/24(Tue)	10/25(Wed)	10/26(Thu)
ドル/円	東京9:00	112.68	114.05	113.34	113.95	113.57
	High	113.57	114.10	114.02	114.24	114.08
	Low	112.52	113.25	113.25	113.48	113.34
	NY 17:00	113.52	113.43	113.91	113.74	113.99
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1849	1.1755	1.1755	1.1760	1.1820
	High	1.1858	1.1777	1.1793	1.1817	1.1837
	Low	1.1763	1.1725	1.1743	1.1753	1.1641
	NY 17:00	1.1785	1.1750	1.1762	1.1812	1.1650
ユーロ/円	東京9:00	133.52	134.07	133.25	134.00	134.24
	High	133.97	134.11	134.18	134.50	134.49
	Low	133.30	133.11	133.19	133.76	132.68
	NY 17:00	133.73	133.27	134.00	134.39	132.83
日経平均株価		21,457.64	21,696.65	21,805.17	21,707.62	21,739.78
TOPIX		1,730.64	1,745.25	1,756.92	1,751.43	1,753.90
NYダウ工業株30種平均		23,328.63	23,273.96	23,441.76	23,329.46	23,400.86
NASDAQ		6,629.05	6,586.83	6,598.43	6,563.89	6,556.77
日本10年債		0.08%	0.07%	0.07%	0.07%	0.07%
米国10年債		2.38%	2.37%	2.42%	2.43%	2.46%
原油価格(WTI)		51.84	51.90	52.47	52.18	52.64
金(NY)		1,280.50	1,282.24	1,276.83	1,277.42	1,266.97

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週、米国では10月31日～11月1日にかけてFOMCがあるが、今会合は現状維持と見て良いだろう。9月FOMCでは、大方の予想通りバランスシートの正常化プログラムを10月から開始することを発表された。また、年内利上げについてあと1回という想定を維持しており、ハリケーンや物価低迷の影響は限定的と評価していることが示唆される。10月11日に公表された議事要旨では、多く(many)の参加者は中期的な見通しが変わらなければ年内の利上げを支持し、他の数名(several others)の参加者は今後数か月の経済指標でインフレ率が2%ターゲットに向かって進んでいることを確認できるようであれば利上げを支持するとした。他方、少数(a few)の参加者はインフレ率が+2%に回復するとの明確な軌道を確認するまで利上げは延期すべきとしており、参加者の中で3つのグループに分かれていることが示されている。9月以降の経済指標はハリケーンの影響によって基調判断が難しくなるが、そうした中で「他の数名」とされた参加者が12月の利上げについての見方を変えるか否かが重要となる。
- ・経済指標では、11月1日(水)に10月ADP雇用統計の発表があり、前月比+19.0万人と9月(同+13.5万人)から増加ペースが加速すると見込まれている。また、同日には10月ISM製造業景気指数の発表もあり、各地区連銀の製造業指数は9月から低下しているものが目立つ中、市場では59.1と9月の60.8から悪化すると予想されている。3日(金)には10月雇用統計の発表が予定されており注目が集まる。雇用統計では、非農業部門雇用者数(NFP)が前月比+31.0万人(9月:同▲3.3万人)と予想されており、ハリケーンの影響で7年ぶりの雇用減少となった9月から持ち直す見通しだ。
- ・本邦では、30～31日にかけて日銀金融政策決定会合が予定されているが現状維持だろう。日銀短観(9月調査)で企業の業況判断が改善するなど景気情勢は良好である。物価動向をみても、コアCPI上昇率が緩やかな上昇基調にあり、日銀は物価上昇のモメンタムが維持されているとの判断を変えないだろう。前回反対票を投じた片岡審議委員が追加緩和に関し具体的な提案をするかは注目が集まる。会合後に公表される展望レポートでは、今年度のコアCPI前年比の見通しが小幅に引き下げられる見込みだが、「2019年度ごろ」としている物価上昇率の2%達成時期は据え置くとみられる。

	本 邦	海 外
10月27日(金)	――	・独10月消費者物価(速報) ・米9月個人消費・所得
10月30日(月)	・日銀金融政策決定会合(～31日)	・米9月シカゴ連銀全米活動指数
31日(火)	・9月労働力調査 ・9月家計調査 ・9月鉱工業生産(速報) ・9月新設住宅着工	・ユーロ圏9月失業率 ・ユーロ圏7～9月期GDP(速報) ・ユーロ圏10月消費者物価(速報) ・米10月消費者信頼感指数 ・米FOMC(～11月1日)
11月1日(水)	・10月自動車販売	・米10月ADP雇用統計 ・米10月ISM製造業景気指数 米9月建設支出
2日(木)	・10月マネタリーベース	・ユーロ圏10月製造業PMI(確報)
3日(金)	文化の日	・米10月雇用統計 ・米9月貿易収支 ・米10月ISM非製造業景気指数 ・米9月製造業新規受注 ・米9月耐久財受注(確報)

【当面の主要行事日程(2017年11月～)】

米FOMC(12月12～13日、1月30～31日、3月20～21日)
 ECB政策理事会(12月14日、1月25日、3月8日)
 日銀金融政策決定会合(12月20～21日、1月22～23日、3月8～9日)
 トランプ米大統領の訪日(11月5～6日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー (2017年10月)

月		火		水		木		金		週末	
2		3		4		5		6			
日本 日銀短観(7～9月期) 日本 自動車販売台数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月) ユーロ圏 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)		日本 マネタリーベース(9月)		ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)		ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(9月7日開催分) 米国 貿易収支(8月) 米国 製造業新規受注(8月) 米国 耐久財受注(確報、8月)		日本 毎月勤労統計(8月) 日本 景気動向指数(速報、8月) ドイツ 製造業受注(8月) 米国 雇用統計(9月) 米国 失業率(9月) 米国 卸売売上高(8月) 米国 消費者信用残高(8月)			
9		10		11		12		13			
日本 体育の日 ドイツ 鉱工業生産(8月)		日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) ドイツ 貿易収支(8月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)		日本 機械受注(8月) 米国 FOMC議事要旨(9月19～20日開催分)		日本 貸出・預金動向(9月) 日本 第三次産業活動指数(8月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月) 米国 生産者物価(9月) ワシントン(米国) G20財務相・中央銀行総裁会合(～13日)		日本 国内企業物価(9月) 日本 マネースtock(9月) ドイツ 消費者物価(確報、9月) 米国 消費者物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 企業在庫(8月) ワシントンD.C. IMF・世界銀行年次総会(～15日)			
16		17		18		19		20			
日本 鉱工業生産(確報、8月) ユーロ圏 貿易収支(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)		ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月) ドイツ ZEW景況指数(10月) 米国 鉱工業生産(9月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)		米国 住宅着工(9月) 米国 ページュブック		日本 貿易収支(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月) 米国 景気先行指数(9月)		ユーロ圏 経常収支(8月) 米国 中古住宅販売(9月)			
23		24		25		26		27			
日本 景気動向指数(確報、8月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)		ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)		ドイツ IFO企業景況指数(10月) 米国 耐久財受注(速報、9月) 米国 新築住宅販売(9月)		日本 企業向けサービス価格(9月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)		日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 米国 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 個人消費(1次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7～9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)			
30		31									
日本 日銀金融政策決定会合(～31日) ドイツ 消費者物価(速報、10月) 米国 個人消費・所得(9月)		日本 失業率(9月) 日本 家計調査(9月) 日本 鉱工業生産(速報、9月) 日本 新設住宅着工(9月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月) 米国 雇用コスト(7～9月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～11月1日)									

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年11月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 自動車販売台数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)	2 日本 マネタリーベース(10月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、10月)	3 日本 文化の日 米国 雇用統計(10月) 米国 失業率(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 製造業新規受注(9月) 米国 耐久財受注(確報、9月)	
6 ドイツ 製造業受注(9月) ユーロ圏 サービス業PMI(確報、10月)	7 日本 毎月勤労統計(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 消費者信用残高(9月)	8 日本 景気動向指数(速報、9月)	9 日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) ドイツ 貿易収支(9月) 米国 卸売売上高(9月)	10 日本 マネースtock(10月) 日本 第三次産業活動指数(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) 米国 財政収支(10月)	
13 日本 国内企業物価(10月)	14 ドイツ GDP(速報、7～9月期) ドイツ 消費者物価(確報、10月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月) ユーロ圏 GDP(速報、7～9月期) 米国 生産者物価(10月)	15 日本 GDP(速報、7～9月期) 日本 鉱工業生産(確報、9月) ユーロ圏 貿易収支(9月) 米国 消費者物価(10月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月)	16 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月)	17 ユーロ圏 経常収支(9月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) 米国 住宅着工(10月)	
20 日本 貿易収支(10月) 米国 景気先行指数(10月)	21 米国 シカゴ購買部協会景気指数(10月) 米国 中古住宅販売(10月)	22 米国 耐久財受注(速報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 FOMC議事要旨(10月31日～11月1日開催分)	23 日本 勤労感謝の日 ドイツ GDP(確報、7～9月期) ユーロ圏 製造業PMI(速報、11月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、11月) ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(10月26日開催分)	24 日本 景気動向指数(確報、9月) ドイツ IFO企業景況指数(11月)	
27 日本 企業向けサービス価格(10月) 米国 新築住宅販売(10月)	28 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月)	29 ドイツ 消費者物価指数(速報、11月) 米国 GDP(2次速報、7～9月期) 米国 個人消費(2次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター(2次速報、7～9月期) 米国 ページュブック	30 日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月) 米国 個人消費・所得(10月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年10月24日	「円安なき日本株上昇」の実態と危うさ
2017年10月23日	衆院解散総選挙を受けて～増税可否、日銀人事、政策への影響～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年9月分)
2017年10月20日	週末版
2017年10月19日	為替政策報告書と日米経済対話～忍び寄る日米FTA～
2017年10月18日	ECB政策理事会プレビュー～「腫れ物」を触るかのような正常化～
2017年10月17日	「優等生の右傾化」が示唆する欧州のリスク
2017年10月16日	G20財務相・中央銀行総裁会議～最後のショイブレ節～
2017年10月13日	週末版(内部留保課税を巡る論点整理～何が正しくて、間違っているのか～)
2017年10月12日	FOMC議事要旨～危うい法廷弁護士のごとき政策運営～
2017年10月11日	円相場の基礎的需給環境～円高地合い続く～
2017年10月10日	米9月雇用統計を受けて～過信は禁物～
2017年10月6日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月7日開催分)～APPは「小さく減らして長く延長」が有力～)
2017年10月5日	正規雇用の賃金は本当に上がるのか？
2017年10月4日	好調過ぎる日銀短観に見る危うさ
2017年10月3日	「賃金と雇用の断絶」に関するIMF分析について
2017年10月2日	カタルーニャ混乱と反EU機運の関係性について
2017年9月29日	週末版
2017年9月27日	次期ECB総裁人事に関する現状整理
2017年9月26日	メインシナリオへのリスク点検～本邦政局リスクは後退～
2017年9月25日	日銀金融政策決定会合を終えて～「寝た子を起こす」反対票～
2017年9月22日	週末版
2017年9月21日	FOMCを終えて～短期は強気、長期は弱気金利見通し～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年8月分)
2017年9月20日	衆議院解散・総選挙の為替、日銀総裁人事への影響などについて
2017年9月15日	週末版
2017年9月14日	日銀金融政策決定会合プレビュー～総括的「再」検証も視野に～
2017年9月13日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月12日	クーレ理事発言の真意～ユーロ高はもう看過できない～
2017年9月11日	円相場の基礎的需給環境～ドルインデックス半値押しで思うこと～
2017年9月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～解せないユーロ買い～)
2017年9月7日	タカ派の劣勢が強まるFOMC～フィッシャー辞任を受けて～
2017年9月6日	追い込まれる日銀～倒錯した政策運営の現状・展望～
2017年9月5日	ECB政策理事会プレビュー～テーバリングまで至るのか？～
2017年9月4日	ユーロ買いに対する現状認識について
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検～急浮上してきた地政学リスク～
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演～イエレン・ドラギ講演のレビュー～
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)～強まる為替への問題意識～)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて～疑われるフィリップス曲線～
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資～下半期に向けてのみどころ～
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について～NY連銀消費者調査～
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリア取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「質」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も？～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく……～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異かさ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道の正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか？
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境～円キャリアの兆候はあるか？～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はくじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応？～
2017年7月5日	ECB版テーバー・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	プラートECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトラントレード～
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上らない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「霏払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～